聴覚障害者の耳になって暮らしを支える

ぼくはポッキー 聴導犬だワン

ポッキーと一緒に「おうみんち」で買い物をする五十嵐さん

聴覚障害のある五十嵐（いがらし） 恵子（けいこ）さんと、「びわこ みみの里」で育成された聴導犬第一号のポッキーを取材しました。

ぼくはトイプードルのポッキー、8歳の男の子です。

いろいろな音を聞き分けて、聴覚障害のある、五十嵐 恵子さん（ユーザー）に教えてあげる聴導犬のお仕事をしています。

ぼくの育った「びわこ みみの里」（水保町）は、聴覚障害のある人のための多機能型施設です。障害のある人の団体が聴導犬を育てた（補助犬の育成団体として認可された）のは全国で初めてなんだって。すごいでしょう。

聴導犬認定試験に合格 五十嵐さんの耳になるワン

2歳の時に聴力を失った五十嵐 恵子さんは、5年前からポッキーと生活をともにしています。

電話の音や玄関チャイム、キッチンタイマー、人の声…。雑多な日常の音を聞き分け、聴覚障害のある五十嵐さんの耳となって、必要なことを知らせる聴導犬の訓練を積みながら、絆と信頼を深めてきました。

ポッキーは、名古屋で聴導犬認定試験を受けて2月に合格。みみの里の職員さんから合格祝いに贈られた、かわいいコートのポケットに聴導犬認定証を入れて、プロのお仕事がスタートしました。

取材の日は、「おうみんち」で五十嵐さんにぴったりと寄り添って、お買い物の補助をしました。

訓練も試験も一緒 特別な絆があるんだワン

従来の補助犬は、育成団体が訓練し障害者とマッチングしています。聴覚障害の当事者団体が育成団体として認可を受けたのは「びわこ みみの里」が全国で初めてです。ポッキーはそこで誕生した第一号の聴導犬です。

いろいろな人の期待と願いを背負った認定試験で、五十嵐さんは「とにかくポッキーを信じよう」と、心に決めて認定試験に臨んだそうです。合格した時には感無量で泣いてしまった、と五十嵐さんは当日を振り返っていました。

二人で一人、分身のように特別な絆で結ばれているポッキーが聴導犬の認定を受けたことで、五十嵐さんの世界は大きく広がりました。

「遠方の実家や友達の所へ遊びにいってみたい」「ポッキーのためにも、聴導犬や補助犬への理解を広めたい」など、未来に向けて意欲に満ちています。

がんばる聴導犬のこともっと知ってほしいワン

呼び掛けや危険に気付きにくい聴覚障害は、一見しただけでは健常者と変わりません。ポッキーという心強いパートナーができて、一目で障害が分かり配慮をしてもらえたり、飲食店や大型スーパーにも堂々と一緒に入れるようになりました。それでも専門店など小さなお店の前では「入って大丈夫かな」などためらうことがたくさんあるといいます。

五十嵐さんはこれまでにも、聴覚障害について広く理解してもらおうと、市内の小学校や社会団体の研修などでポッキーの訓練の様子を見てもらうなど、積極的に活動してきました。

五十嵐さんは「ポッキーがいてくれて私はとてもラッキーです。でも、聴導犬だけでなく補助犬、介助犬なども まだまだ知られていないし、理解も不十分だと思います。これからもたくさんの人に知ってもらう活動をしていきたいと思います」と話していました。

※ポッキーをまちで見掛けても、お仕事中なので、触ったり声を掛けたりしないでね。

補助犬の理解広げる活動（地域総合センター）

音を聞き分けてユーザーに伝える聴導犬

買い物の後に陽だまりで日向ぼっこ